

第2回 日本公衆衛生看護学会学術集会でワークショップを実施しました。

2014. 1. 13

主催：全国保健師長会健康日本21推進に関する特別委員会

テーマ：健康日本21推進における保健活動の課題

ー 新しいニーズに対応した保健師活動を考える ー

【企画の意図】

「健康日本21（第2次）」、介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画、市町村地域福祉計画など、対象者や取組状況が重なる計画・事業が推進されている現状ですが、対象となる住民・地域は同一であり、各所属が部門横断的に連携し、各計画の推進を図ることが重要と言えます。現状では各関係部署との協働・連携による活動の推進は、組織が細分化される中、難しさを感じることも多い状況です。このような中、健康日本21の推進に向けて、地域保健活動を展開する保健師の役割、活動の実際について考えるため本ワークショップを開催しました。

【実施概要】

参加者数：23名（東京都、埼玉県、群馬県、神奈川県、千葉県、北海道、岩手県、茨城県、滋賀県）

○事例報告1（静岡県掛川市）

「保健師と地域包括ケア～掛川市の取り組み～」地域健康医療支援センター「ふくしあ」のとりくみ

【事例報告のまとめ】

制度の隙間を埋め、垣根のない総合支援体制やアウトリーチ的な活動を重視した地域拠点の設置、行政のサービスに地域の力を活かしたサービスをミックスした取組みについて報告がありました。

具体的には、医療・保健・福祉・介護が連携して総合的に支援するため、行政（保健師・事務）、地域包括支援センター、社会福祉協議会（地域福祉相談員）、訪問看護が協働する地域拠点として「ふくしあ」を市内5箇所に整備。「ふくしあ」は、執務スペースのワンフロア化による迅速な多職種連携と、地域に出向くアウトリーチ活動に力を注ぎ、年齢や身体状況にかかわらず、垣根のない支援ができる総合的な相談・支援窓口です。多職種連携における情報共有や複数の団体で共同訪問をおこなうとともに、地域ケア会議の開催から地域を巻き込んだフォーマル及びインフォーマルなサービスを組み合わせる支援体制の構築を行っています。個別支援で、以前は各機関がバラバラで支援していたものを、「ふくしあ」保健師がコーディネート力を発揮することで、専門職間を繋ぎ、世帯単位の支援を組み立てることができ、本人と支援機関、支援機関同士が顔の見える連携につながっています。

この取組みにおける**保健師の視点と役割**として、多職種連携や部門横断的なコーディネーター、予防の視点で若年層から連続した支援の重要性について報告されました。

○事例報告 2 (埼玉県川越市)

「住民主体の保健・福祉の仕組みづくりへの挑戦 ～川越市の取り組み～

地区担当保健師活動の試行について

【事例報告のまとめ】

地区担当保健師、コミュニティソーシャルワーカー、地域包括支援センターランチなど総合相談体制の重なりについて、市民から「それぞれの違いがわからない??」という声が発端となり、みんなで揃って同じ会議に参加し、この中の誰かに相談したら、各担当部署につなぐことを説明したことで住民の理解を得、顔の見える関係づくりと住民に理解しやすい保健福祉活動がスタートした事例の報告がありました。

この中での**保健師の視点と役割**として、部門を横断的につなげるリーダーシップと、総合相談のあり方や課題への対応、地域全体をみる力が必要であることが報告されました。

○グループワーク

「顔の見える関係～つながり～をつくるために何が必要か!？」というテーマでグループワークを行いました

○グループワークの概要

地区担当制は世代を超えた支援ができることや、組織内における連携の困難さ、そしてこれを乗り越えるためには、まず保健師間の連携が必要であるとの意見が出されました。また、連携のイメージが各々違うことを認識し、可視化することで共有でき各々の強みを生かした活動へつながるといった意見がありました。

また、地域の課題を把握するためには、地域の意見や現状が吸い上げられる仕組みづくりが必要であり、組織横断的な連携においては、保健分野の統括的立場の保健師が役割を担えるのではないかという意見も出されました。

現状では、地域包括支援センターの保健師とヘルスの保健師がつながっていない、地域包括支援センターと保健センターがケースごとのつながりだけでなく、システムとしてつながるにはどうしたらよいかという投げかけに対し、一緒に地区診断を行うべきという意見や、多職種連携で顔の見える関係をつくるため、ワーキングを何回も行き、話し合う機会を作ったという事例の紹介もありました。

多職種間の連携においては、各ライフステージにおいて、予防的視点を持った専門職として連続性のある支援のリーダーシップをとることが求められるという意見も出され、地域を担当する保健師としての役割をあらためて共有しました。

○まとめ 【健康日本21推進における保健師の視点と役割】

・地域全体をみる（地域の課題を把握）ことが重要

各分野が縦割りに各業務の視点から地域を把握しているが、各分野横断的に情報を共有し、地域全体を俯瞰することが重要である。

・地域の課題を共有する役割が保健師に求められる

各部署で把握された課題を組織横断的に共有する際、保健分野の統括的立場の保健師にその役割が期待される。

- **顔の見えるつながりをつくるコーディネーター役**

保健師がコーディネート力を発揮することで、世帯単位の支援を組み立てることができ、支援機関同士が顔の見える連携につながる。

- **専門性を発揮したリーダーシップ**

各部門の横断的連携では、保健師の専門性を活かし、予防の視点で全てのライフステージにおいて連続性のある支援を構築するようリーダーシップを発揮することが必要である。



発表の様子



グループワークの様子

(記：健康日本 21 に関する特別委員会委員長 今野弘美)